



御菌中だより

清流

令和4年9月9日
令和4年度 伊勢市立御菌中学校
第9号 伊勢市磯町2225
文責 校長 西川泰正

教育目標「心豊かで たくましく 今日を生きぬく 御菌中学生の育成」 Tel. 36-5139 Fax. 36-4701

令和4年度全国学力学習状況調査の結果より

全国の中学3年生と小学6年生対象に4月に行われた全国学力学習状況調査の結果についてお知らせします。この調査は、児童生徒の学力や学習に関する状況等を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。今年度の中学校における教科調査では、国語、数学、理科の3教科について調査が行われました。三重県では、国語と理科で全国平均に比べ低く、数学は全国平均を上回る結果でした。本校の3年生の結果は上の表のとおりで、国語、数学については、全国及び県平均を上回りましたが、理科は全国及び県平均を下回る結果となりました。理科が県平均や全国平均を下回った理由として考えられるのは、国語や数学と違い理科は3年に1回であり知識や技能の活用を問う問題形式に慣れていないことやコロナウイルスの影響でほぼ2年間実験ができない状況が続いたことも影響し、「理科が好きだ」と答える生徒の割合が全国に比べ10ポイント以上少ないことも原因の一つと考えられます。結果の良かった数学では、「数学が好きだ」と答える生徒の割合が全国平均を2～3ポイント上回っており、生徒の関心と結果の相関がみられることがわかりました。今後は、どの教科においても特に全国平均との差がみられた問題を中心に、生徒の躓きの原因等を分析し、授業改善につなげていきたいと考えています。先日、3年生に問題と個人の結果もお渡ししました。できなかった問題の振り返りをしてみるとよいのではないかと思います。

平均正答率	国語	数学	理科
本校	71.0	54.0	47.0
全国	69.0	51.4	49.3
県	68.2	51.9	48.1

また全国学力学習状況調査では、「生徒質問紙」があり、約70の質問項目がありました。多くの項目のうち特に全国と本校との差が大きかったものをいくつかを紹介します。

● 月曜日から金曜日に1日当たりどれくらいSNSや動画視聴をしますか。

4時間以上 本校 22.0% 全国 15.6%

ゲームの時間も同様に4時間以上が22%ありました。4時間以上ゲーム等に時間を使ってしまうとどれだけ勉強しても学力の向上は望めないという調査結果もあるそうです。1時間以内にゲーム等をセーブできる生徒が最も学力が向上するそうです。

● 自分にはよいところがあると思いますか。

当てはまる+どちらかといえば当てはまる 本校 71.2% 全国 78.5%

昨年度は、全国平均を上回っていましたが今年度は大きく全国平均を下回る結果となりました。学習の成績や部活動の結果だけではない「よさ」があるのですが、その「よさ」が見えていない状況にあるのではないかと思います。お互いによいところを探そうにしたいですね。

● 学校で授業中に自分で調べる場面で、ICT機器をどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 本校 47.5% 全国 12.3%

早い時期に市がタブレットを用意してくれたこともあり、大幅に進んでいる状況となっています。

1・2年生のみえスタディチェックの結果より

4月から5月にかけて、1・2年生が第1回みえスタディチェックに取り組みました。C B T方式というタブレットでほとんどの問題の回答を入力する方式で行いました。1年生の結果は、国語と理科で県平均を3ポイントあまり下回りましたが、数学は、4ポイントあまり県平均を上回りました。2年生は、理科と数学で約2ポイント県平均を上回りましたが、国語は約2ポイント県平均を下回りました。1月には第2回のみえスタディチェックが、国語と数学で行われます。第1回の結果で正解できなかったところを見直して、第1回を上回る良い成績がとれるようにしていきたいと思います。なお、現在の2年生が来年度4月に受ける令和5年度の全国学力学習状況調査では、国語、数学に加え英語の3教科で実施される予定です。

学力調査の結果を受けての本校の取り組みについて

全国学力学習状況調査は、新学習指導要領の求める能力を踏まえて作成されています。そのためこの全国学力調査に対応していくためには、新学習指導要領の唱える「主体的・対話的で深い学び」といわれる授業の形を進めていくことが大切であると考えています。今回の調査においても理科で全国平均を下回りましたが、新学習指導要領を意識して作成された問題に対して十分に対応できていなかったところがありました。本校では今年度は特に主体的・対話的で深い学びの実現に向け、タブレットや電子黒板等のICT機器の利活用について教員の研修も進めています。生徒質問紙にも表れているようにタブレットの利用などでは、本校の生徒には当たり前のよう使用する状況があります。この優位性を生かし、今まで以上に効果的に使うことによって学力向上を図りたいと考えています。また、新型コロナウイルスの感染対策として、話し合いの活動が制限されてきましたが、ワクチンの接種も進んできており、制限が緩和されつつありますので、対話による深い学びについても徐々に進めていきたいと思っています。

一方、生徒質問紙の自己肯定感についての設問では低い傾向があり、そのことがいろいろなことに取り組んでいこうという意欲に結び付いていかない要因にもなっています。同じ様子を表現するにも「いいかげん」とみるか「おおらか」とみるか、「がんこ」とみるか「信念がある」とみるかとらえ方にはいろいろあります。周りへのものの見方をポジティブに変えていくことで、自己肯定感を高めていけるとよいと考えています。

本校では以前より家庭での学習の時間が短く、ゲームや動画視聴などの時間が長い傾向があります。今年度も同様の結果となっています。ゲーム等の時間を減らしていくには、親など人に言われて制限することを考えがちですが、最も大切なのは自分のことを自分で考えて生活を見直すことができる「自律」という部分です。「おやつ誘惑に耐え切れずに食べ過ぎて肥満になる。」「ゲームやY o u T u b e がやめられずに生活の乱れがみられる。」など現代社会の問題点でもあります。中学校以降の生活も考えた時、「自律」した生活を送れるようになっておくことは非常に大切なことです。「自律」した生活を送ることができる人の多くは、自分のことを自分でできる「自立」した生活を送れる人が多いように思います。学校生活だけでなく家庭での生活も大きく関係しているように思いますので、生活面についてもご家庭でも一度考えてみてもらえるとありがたいです。

